

うつのみやこども賞だより

平成19年度 第2回

《今月の本》

「ぼくらの妖怪封じ」

香西美保 / 作 (岩崎書店)



「ぼくらの妖怪封じ」

香西美保 / 作 (岩崎書店)

妖怪がいろいろでてきたり、話にいるいろいろな動きがあって面白かったです。

燃え上がる火の中にもかかわらず、雪女や他の妖怪たちで火を消して力を封印したのがすごかった。

妖怪があちこちにいて普通に人間みたいに暮らしていた、という設定が面白い。

本を見た感じは怖そうだったけれど読んでみるとハラハラして面白かった。次はどうなるのかと読むのが止まらなくなった。

妖怪は悪いイメージが大きいけど悪さをしようとしたのは人間だったからドキドキして面白かった。

美依子とひろあきが妖怪の封印をといった犯人を捜すところがよかった。

「月光のコパン」

舟崎克彦 / 作 (岩波書店)

主人公がメスだと思っていたけどオスだったのでびっくりした。ユーモアあふれるお話でした。

コパンの冒険は自分がコパンになったようで面白かった。

ネコがお話から生まれたと知ったときはびっくりした。

コパンが天窓を突き破ったり、女の人のかっこうをしたりするのはすごいと思った。不思議な気持ちになれる本でした。

とてもよかった。

動物が主人公で最後が感動できるお話でした。

「どっから太郎と風の笛」

やえがしなおこ / 作 (ポプラ社)

こういちが動物としゃべれたり、どっから太郎の笛が聞こえたり、「何でだろう？」と思うことがたくさんあってどんどん読んでしまいました。

話の内容、流れがよくつかめず、意味がわからなかった。

最初予想していたのと違って、不思議でわくわくする内容でした。

風の笛がほしいなと思いました。森に行ってみたいです。

岩にすわっている男がこういちのことを何でもしていることが不思議だと思いました。

「ラブ&ランキング」

花形みつる / 作 (ポプラ社)

ヒナコが「イケてない人」なのにがんばっている所がよかった。

月子はみんなからクールでかっこいい性格だと思われていて自分でもそうだと思っていたのに実は違ったところが「そういうこともあるな」と納得できた。

最初ヒナコは一緒にいて本当に疲れそうだったけど、だんだんヒナコの前向きなところが気に入ってきました。

「イケてない女子」が「オレ様男子」に恋をするというアンバランスな設定が面白かった。

最初はこんな完璧な小学生が出てきてびっくりした。

ランキングをつけて天才にすごしているのがすごいと思った。